



## Kobe Shoin Women's University Repository

Title	ウクライナ抒情歌の性格 The Character of Lyric songs in Ukraina
Author(s)	二見淑子 (Yoshiko Futami)
<i>Citation</i>	キリスト教論藻 (KIRISUTOKYO RONSO) Bulletin of the Institute for Research of Christian Culture, No.16 : 43-91
Issue Date	1983
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

# ウクライナ抒情歌の性格

## 二 見 淑 子

### 内 容

はじめに

第I章：ウクライナの名称とその地理的条件

- A 名称
- B 位置，面積，人口（資料I，A）
- C 自然
- D 産物
- E 農業の発展

第II章：ウクライナの歴史的背景（資料I，B）

- A ウクライナにおける原始共産制の構成
- B 原始共産制の崩壊と初期国家形成
- C 封建的關係の形成発展，古代ロシア国家の成立
- D キェフ・ルーシの滅亡と民族文化
- E 隷属時代
- F 独立運動の成功
- G ロシアとの合併
- H ウクライナの植民地化
- I 19世紀後半以降今世紀初頭まで

第III章：人種，社会，宗教，文化と音楽文化

- A 人種
- B 社会
- C 宗教
- D 文化
- E 音楽文化とその起源

#### 第IV章：ウクライナ抒情歌とその内容別分類

- A ウクライナ抒情歌
- B 抒情歌の内容別分類（資料II～VII）

#### 第V章：ウクライナ抒情歌の科学的分析

- A 分析項目の紹介
- B 内容別分析調査（資料VIII～XIの楽譜及び資料XII）

#### 第VI章：ウクライナ抒情歌の分析統計（資料XIII）

#### 第VII章：ウクライナ歴史歌謡との総合比較

- A 科学的分析統計の比較（資料XIV）
- B 文学的、音楽的側面の比較
- C 総合
  - イ 共通点
  - ロ やや類似点
  - ハ 決定的相異点

#### 第VIII章：ウクライナ抒情歌の性格

むすび

### はじめに

大小100余の民族的構成を有する多民族国家ソ連邦中、殊に〈歌の国〉の誉れ高いウクライナにおいて、何れの国、何れの民族の中ににでもある抒情歌が如何に息づき花開いているか？ 特に極めて豊かな内容を持つウクライナ抒情歌の諸相について研究し、科学的分析を混じえての抒情歌の性格を、ウクライナ歴史歌謡との分析統計を含む総合的比較研究において明確に把握し、合せてその意義について若干の考察を加えたい。

#### 第I章：ウクライナの名称とその地理的条件

##### A 名称

ウクライナの本来の名称は小ロシアである。Ukraina  
〈Україна〉という語は12世紀

の年代記に初めてあらわれ、<sup>v</sup> **кrai** 即ち国境地方の意で各地に使用されていたが、後には小ロシアを指すことになった。

## B 位置、面積、人口（資料 I, A 参照）

1. ソ連邦ヨーロッパ・ロシア南西部にあり、北から東にかけてロシア連邦に囲まれ、南部に黒海とアゾフ海を抱え、南西部でモルダヴィア、北部でベロルシアと接し、西側では北からポーランド、チェコスロバキア、ルーマニアの東欧諸国とそれぞれ国境を接している。
2. ソ連邦中人口及び経済的重要性において第2位を占める共和国で1922年ソ同盟に加盟した。
  - a 面積…603,700平方km（ソ連中第3位）
  - b 人口…47,136,000人（1979年調査）
  - c 首都はキエフであり、25州より成る。

## C 自然

1. 地形…ウクライナは主として小高い高地を有する平原で形成され、南東部にドネツ丘陵（Донецкий кряж）、西部にヴォルィニ・ポードリャ高地（Волыно Подольская возвышенность）があり、その中央に Днепр（ドニエプル）河など（プリピャチ川、デスナ川）が流れ、ウクライナ大平原が広がっている。北部及び北西部には河川、森林、草原、沼沢が多いが、南半部には河川が少ない。
2. 気候…
  - a 北部、北西部は大陸性気候。しかし大西洋の影響で比較的降水量が多い。北部と南部の降水量は東へ行くほど減少しているが南半部は降水量少なく気温が高いため蒸発が多い。
    - b 気候は一般には温暖で1月の平均気温は摂氏-5度~-6度であり、夏季半年間の気温は摂氏10度を下らない。
3. 土壌、植物分布による分類（3地帯）
  - a 森林地方…降水量多く混合林に富み、<sup>注1</sup>ポドゾル土壌を持ち、沼沢地が多い。（キエフの緯度に達している。）
  - b 森林ステップ地方…湿潤で温暖な気候を持ち、樹林少なく肥沃な黒土を有す。さらにドニエプル右岸（低地に広葉樹林がある）と草原のドニ

エブル左岸（峡谷によって切断された沿岸に広葉樹林と松林との狭い地帯がある）に分けられる。

- c ステップ地帯…全く樹林がなく南方に行くほど栗色土壌に変化する黒土を有し、特に東部では周期的に日照りに悩む草原地帯が広がっている。

#### D 産物

1. 温暖な気候の上、土壌も肥沃な黒土地帯が大部分を占めている（第I章C項2及び3のb, c参照）ため、植物が豊かであらゆる種類の温帯作物が良く生育し、南部は綿花、密柑などの亜熱帯作物の生育が可能である。
2. 北部及び西部には貴重な森林が広がっている。（第I章C項3のa, b参照）
3. ドニエブル下流域に主として広がる草原地帯（第I章C項3のc参照）には有用鉱物が埋蔵されている。（コークス炭、無煙炭、耐火煉瓦、石灰岩、マンガン、岩塩、陶土、褐炭、泥炭などの有用鉱物が多く、農業及び工業に必要な天然資源が頗る豊富である。）

#### E 農業の発展

1. 領域が高度に耕地化され温暖を好む工業用作物（ビート、向日葵、煙草）が比較的多い。
  2. ぶどう園その他の果樹園が多い。
  3. 秋蒔小麦の作付が広く行われている。
- 以上ソ連邦でも豊かな地域と目されている。

## 第II章：ウクライナの歴史的背景（資料I, B参照）

### A <sup>注3</sup>ウクライナにおける原始共産制の構成

1. ウクライナ地方において人間最初の足跡は初期旧石器時代にまで遡る。<sup>注4</sup>
2. 中期旧石器時代に人間は現代のウクライナの土地の夥しい部分に入居した。<sup>注5</sup>
3. 後期旧石器時代には既に現代のウクライナ地方全土に定住した。<sup>注6</sup>
4. 旧石器時代に人間は狩猟と食物として野生動植物の採集に従事し、氏族<sup>注7</sup>

制度—母権制—の生成の時期であった。

5. 中石器時代漁獵が発達し始め、弓が用いられ始めた。
6. 最古の種族団体の組成が始まり、新石器時代に大いなる発達を遂げた。
7. <sup>注8</sup>銅石併用時代と<sup>注9</sup>青銅時代に農業と牧畜業が著しく発展した。
8. 紀元前2000年の中頃にドニエプル右岸には部族合同が起った。
9. 紀元前1000年までの初に<sup>注10</sup>鉄器時代に変った。

#### B 原始共産制の崩壊と初期国家形成

1. 紀元前7世紀までに Причерноморье (黒海沿岸) の草原に原始共産制の崩壊と初期国家形成の時期に遊牧の種族スキタイ人達が移住した。
2. 彼等の1つによって紀元前4世紀までに国王 <sup>Atei</sup> Атей <sup>注11</sup> を首領としてスキタイ人達の種族統一が行われた。
3. 紀元前7世紀→3世紀までにウクライナの森林・草原の中間地帯の地域には地方的農業・牧畜の部族が住み、ドニエプル河中流の右岸に住んでいたこれら部族の1部分を若干の研究者達は東スラヴ人の直接の祖父と見做している。
4. 紀元前7世紀→5世紀までに黒海北岸に、奴隸制都市国家を創立したギリシャ人達が住みつき始め農業、漁業、手工業、商業の大中心の5大都市が栄えた。
5. 紀元前5世紀までに <sup>Kerchenskii</sup> Керченский半島にある5大都市の1つ <sup>Panchikapei</sup> Пантикапей <sup>注12</sup> <sup>Bospor</sup> を首都とする国家 Боспор 国家が起った。
6. 紀元前2世紀までにウクライナの草原地方にウラル河沿岸とヴォルガ河沿岸の草原からやって来た <sup>Sarmat</sup> Сармат <sup>注13</sup> 人の部族が占領した。
7. 西暦2世紀→5世紀に草原に居住していた古代スラヴ人達のいたところ <sup>Chernyakhov</sup> Черняхов <sup>注14</sup> に Черняхов 文化の部族が居住し、農業、牧畜、手工業に従事し隣の部族と黒海北岸のギリシア諸都市及びドナウ河沿いのローマの <sup>Provintsiya</sup> Провинция <sup>注15</sup> と取引した。
8. 西暦3世紀→6世紀に黒海北岸に <sup>わびたしい</sup> 夥しい部族や民族大移動の過程において誘い込まれた民族 (<sup>Got</sup> Гот <sup>注16</sup>, <sup>Gunn</sup> Гунн <sup>注17</sup>, <sup>Avar</sup> Авар <sup>注18</sup>) が侵入した。
9. 西暦4世紀→7世紀に中部ドニエプル河沿岸地は <sup>Ant</sup> Ант <sup>注19</sup> 族が、しかしよ

り遅く <sup>Rus</sup> Рус 或いは <sup>Ros</sup> Рос の名称で有名なスラヴ人の部族連合が占領した。  
<sup>Rus'註20</sup>〈Русь〉という名称はより遅くすべての東スラヴ人達に広がった。

C 封建的関係の形成発展。古代ロシア国家（8世紀→11世紀）の成立

1. 農業, 牧畜, 手工業の発達の結果, 東スラヴ人達に原始共産制構成の解体が起り, 封建的関係が形成され, 国家形成一公国が起った。
2. 東ヨーロッパの大部分に8世紀→9世紀までにスラヴ族が居住した。
3. ウクライナの北部地方には諸部族の統一が行われていた。
4. <sup>Podsechinoe註21</sup> Подсечное 農業は8世紀→9世紀に耕地農業に場所を壊った。
5. 村落共有体農業の個人経営形式が普及し, 手工業が普及し, 9世紀には商業, 手工業の種族間の中心地である東スラヴの町は20以上あり, <sup>Kiev註22</sup> Киев, <sup>Chernigov註23</sup> Chernigov, <sup>Pereyaslavl'</sup> Переяславль, <sup>chernigov,</sup> Чернигов, <sup>Pereyaslavl'</sup> Переяславль 等である。
6. バルト海と黒海を結んでいた水路が9世紀には重要な価値を獲得し, 生産の封建の様式が確立された。
7. <sup>Smerd註24</sup> 支配する階級は領主であり, 住民の大多数を従属し, 搾取されるСмерд <sup>Zakup註25</sup> Закуп達, <sup>Khorop註26</sup> Хороп達, 都市の貧民を構成し, 農民階級も構成した。領主は <sup>Knyaz'註27</sup> Князь達, <sup>boyarin註28</sup> Боярин達, 最高僧侶階級である。

以上4世紀→6世紀にカルパティア山脈の北東麓からドン川にかけての全域に定住した東スラヴ族は9世紀→12世紀にキエフを首都としてキエフ・ルーシ（ロシア）を形成した。

D キエフ・ルーシの滅亡と民族分化

1. キエフ国家は11世紀, 12世紀に西方と北方に拡大したが1237年→1241年モンゴル軍の侵入によって最終的に崩壊し, その廃虚の中から東スラヴ族は大ロシア, 小ロシア, 白ロシアの3民族に分化した。
2. 小ロシア民族発展の母体となったウクライナの荒廃は最も甚だしく住民は四散し, その中心もキエフから西方のガリーチ・ヴォルィニ公国に移った。
3. 南部の黒海沿岸ステップとクリミアはキプチャク汗国（後のクリミア汗国）に, カルパト・ウクライナはハンガリーに占領された。
4. ウクライナは14世紀に入ると, ポーランド王国とリトアニア公国の間で

分割され、小ロシア民族は完全に独立を喪失した。

## E 隷属時代

1569年ルブリンの合同（ポーランドとリトアニアの合体）以後、ギリシア正教徒であるウクライナ人に対するポーランド・カトリック教会の圧迫、ポーランド貴族による賦役強化と土地取上げの結果、ウクライナ農民は辺境の注29ドニエプル・ステップに集団的に逃亡し、注30ザポロージェ・コサックと呼ばれ、以後ウクライナ独立運動の中核となった。

## F 独立運動の成功

きびしいポーランドの圧迫に抗してウクライナ民族は種々の反抗を行ったが、遂に17世紀中葉 Bogdan Khmel'nitskii注31 Богдан Хмельницкий の指導下に独立運動が成功をおさめ、ロシアとの合併が決議された。

## G ロシアとの合併

1. 1654年ベレヤスラフのコサックの代表者会議でロシアとの合併が決議され、ロシアはポーランドと戦ってドニエプル左岸とキエフの領有を承認させた。
2. 18世紀末にはトルコと戦って黒海沿岸とクリミアを、さらに1793年→1795年のポーランド分割によってドニエプル右岸のウクライナを取戻した。

## H ウクライナの植民地化

1. ロシアは初めウクライナの自治を認め、ゲトマン頭目制度を許したが、18世紀初ゲトマン・マゼッパがスエーデンと内通してロシアに敵対した（1708年）後はゲトマンの選挙制を皇帝による任命制にかえ、その行政も皇帝に直属の小ロシア・コレギアに1722年移された。
2. 注32エカテリーナ2世時代には1764年ゲトマン制度も廃止され、ウクライナはロシアの行政県に改組され、農奴制諸法令が適用された。

## I 19世紀後半以降今世紀まで

1. ウクライナはロシアの完全な植民地であったが、19世紀後半よりヨーロッパの穀倉として世界市場に登場し、てんさい甜菜の生産でもロシア国内に重きをなした。
2. 鉄道が90年代に発達し、フランス、ベルギーなどの外国資本の流入によ



ってウクライナ重工業は異常な発達を遂げ、一躍先進的工業基地に変身した。

3. 独立運動も一部のインテリによる秘密結社運動から、次第に労働者階級を中核とする全ロシア的な革命運動に結びつき、1903年にはウクライナ全域にロシア最初のゼネストが起った。以後革命への道を歩んだことは今さら論を俟たない。

### 第III章：人種，社会，宗教，文化と音楽文化

#### A 人種

1. 小ロシア人或いは赤ロシア人ともいわれ、大ロシア人、白ロシア人と共に言語的、種族的に東スラヴ族に属する。
2. 文字はロシア文字（その6字を欠き、別に3字を加える）を用いるがロシア語の方言ではなく、独立の1スラヴ語をなし、大ロシア語からの分離は11世紀に始まるといわれる。
3. 身体的特徴としては短頭（頭示数83、15世紀以前には長頭的）で他の東スラヴ族に比し身長高く顔、肩巾広く、脚長く、皮膚・毛髪はより暗色を帯びている。
4. ウクライナ族はボラニア族、ウグリッキア族、トヴェリア族の子孫ともいわれ、その故地はカルパティア山脈の北東部地域とされている。<sup>注33</sup>
5. ウクライナ人は元来農民であるが、南西の山地地方では牧畜や林業を営んでいる。
6. 主要食料はパン、ジャガイモ、トウモロコシ、キビ、野菜、豆ソバなどで鶏卵や牛乳を多量にとるが、肉類は豚と羊を祭日にのみ食するのが普通。飲酒の風が盛んで、ナン酒やキビやアワで作ったクヴァス<sup>注34</sup>が愛飲される。

#### B 社会

1. 強大な家長権、血族制が固有の社会制度で、労働、祖先崇拜、血縁共同体としての大家族共同体が社会構成の単位であった。
2. 女性の地位は低く、結婚はいわゆる購買婚的で特異な風習があり、若者

組の役割が大きく花嫁を浴室に導き処女試験を行ったりした。

## C 宗教

宗教はキリスト教化が公式には10世紀後半に行われた。キエフ・ルーシの<sup>注35</sup>ウラジーミル (Владимир) 聖公はビザンチン帝国との政治的結びつきを固めるためビザンチン皇帝<sup>Василий I</sup>バシレイオス 2 世の妹<sup>Анна</sup>アンナを妻に得て、988年に、黒海北岸のケルソネス (ヘルソン) で洗礼を受け、キリスト教に改宗した。帰国後親族及び公国の住民に半ば強制的に受洗させ、それ以前大公自身熱心に崇拝していた民族的宗教の神像を破壊し、キリスト教を国家宗教として受け入れた。

キエフ・ロシアにはそれ以前からイスラム教、ユダヤ教、ローマ教会 (後のカトリック) などの布教が行われており、9世紀にはビザンチン教会の宣教師も伝道を行っていた。ビザンチン教会はキエフを中心とするロシアを単一の主教管区となし、キエフに府主教座を置き、コンスタンチノーブル総主教の直轄下に入れた。この状態は15世紀まで続き、キエフ府主教は殆どビザンチン教会派遣のギリシア人であった。然し原始宗教の精霊崇拜も依然根深く行われていた。信者は主としてロシア正教徒であるが、バプティストやその他の宗派に属する人々も多い。ガリチア及びカルパチア地方に居住するウクライナ人は大部分がギリシア正教徒であるが、世界第2次大戦後信者はロシア正教徒として数えられている。

## D 文化

苦難の道を辿ったウクライナ民族の歴史が示す如くその種族文化は諸民族の混入が著しく、特にギリシア正教はウクライナ民族の精神・生活文化を著しく変化させ、又ビザンチン文化も浸透しているが、なお固有文化が強く残っている。

## E 音楽文化とその起源

1. ウクライナ人は一般に陽気で音楽を好む。豊富な民謡及び叙情詩の多くは女性によって作られ、舞踊も盛んであるが、16世紀から17世紀にかけて<sup>注36</sup>外くの казак (コサック) 戦士団の歌が生れた。
2. 音楽文化の起源は古代東スラヴ人から発し、14世紀から100年の間に形

成された。

3. 独創的歌謡のウクライナ民族のフォークロアが音楽文化の基礎となった。  
そのフォークロアの中に民族の歴史、民族解放闘争の反映が見出される。
4. 民族音楽は単旋律として発達したが、同様に声楽的一器乐的及び器乐的  
形式において和声的組織としても発達したのである。

## 第IV章：ウクライナ抒情歌とその内容別分類

### A ウクライナ抒情歌

1. 弾き方と歌い方の名前が Протяжные песни (長く歌う歌) で<sup>注37</sup>歴史歌謡  
と同じものも含まれる。(歴史歌謡とは歴史的内容の名称)
2. 内容は社会日常的なもので明確なテーマが稀薄であるが以下の如く極めて  
豊富である。
  - a 女性の運命
  - b 愛について
  - c 船曳人夫(日雇農夫)
  - d 他郷に死す者(望郷)
  - e チュマク
  - f コサック(兵士)
  - g 新募兵など

### B 抒情歌の内容別分類

- a 女性の運命(2曲 二見淑子 訳)
1. Ой глибокий колодезю, золотіі ключі。(資料II, No.1 参照)  
ああ 深い井戸よ, 金色の泉よ
  - 1) ああ 深い井戸よ  
金色の泉よ(3回)
  - 2) だが もう うんざりした。  
世の中を嘆いた。(3回)
  - 3) ああ 深い井戸よ  
落ち込まないよう気遣う。(3回)

4) さすらい人を愛した

ああ 永久に破滅になるだろう (3回)

5) ああ 深い井戸よ

落ち込まないよう気遣う。(3回)

6) さすらい人を愛した

そして永久に破滅してしまった。(3回)

若い女性が結婚して花婿の両親の家に入ってから不幸な苦しい日々を送るようになり、遂には生命まで危険に陥った。しかしそれは悪い人と会って結婚したからなのだという嘆きの歌。

2. Чи я в лузі не калина була (No.2 参照)

或は私は牧草地の灌木ではなかったか?

1) 或は私は牧草地の灌木ではなかったか?

牧草地の中での真紅の実ではなかったか?

私(枝)を手折って束を作った。

私の運命はこのようなです。

私の運命はいたましい。

2) 私は両親の間では赤ん坊ではなかった。

私は両親の間では愛されなかった。

私を片付け、結婚させた。

世の中は私にとってどうにもならなかった。

私の運命はこのようなです。

私の運命はいたましい。

結婚した女性の悲しみを歌った歌で、花のように美しかったのにと嘆いている。以上2曲とも社会的地位の低い女性の身を只管嘆く悲しみがひしひしと伝って来る。

b 愛について (1曲 二見淑子 訳)

恋愛、肉親、夫婦の情愛、友情、人類愛など総ての愛を網羅するもの。

Ой гай мати, гай (おお お母さん) (資料III, No.1 参照)

おお お母さん、私を嫁がせて下さい。

けれど誰にでも良いと言うのではなくて…

そうならば 私の美は可哀想です。

この歌は“お母さん、良い人に嫁がせて下さい”という娘の願いで女性の地位の低かったウクライナにおいて前述の a 項の 2 曲の歌謡にも窺える良き人に嫁ぐことだけが女性の幸福につながったと考えられた。母親に明るく甘えた軽やかに陽気な歌謡の裏に、母娘のほのぼのとした情愛が強く感じられる。

c 船曳人夫 (日雇農夫 1 曲 二見淑子 訳)

Та забілили сніги (Бурлацька) (資料III, No. 2 参照)

そら 白く白く見え始めた雪 (船曳人夫)

そら 白く白く見え始めた雪

もっと 白く見え始めた檜の森

船曳人夫の身体は疲れて痛くなった

そして 頭も 白くなった

自分の家がなく生活のため金持の家で働かねばならない船曳人夫の歌。悲哀に満ちた葬式のような歌である。Бурлацькі は辞書によれば<ヴォルガ河などの船曳人夫>と記載されているがウクライナ人は<日雇農夫>とも言い。革命前の存在で現在 Бурлацькі の人は存在しない。この歌は船曳人夫、日雇農夫の何れとしてもそれぞれ胸に迫る深い味わいを持っている。

d 他郷に死す者 (望郷 1 曲 二見淑子 訳)

Чуєш, Брате Мій. (資料III, No. 3 参照)

私の兄弟 聴き給え

私の兄弟、私の友達 聴き給え

鶴は灰色の細い縄のようになって

暖かい国へ飛んで行く

クル、クル、クルと

悲しい鳴声で鳴きながら

他郷で死ね 海を飛び越えるまで

翼を擦り減らして 翼を擦り減らして

兄弟の中 1 人が他国に行ってしまう、故郷にもう 1 人の兄弟が残った。他国

にいる兄弟は故国に帰りたい気持ちを空飛ぶ鶴を見て“故郷へ飛んで兄弟や友達によろしく伝えてくれ”と願むが鶴は“私はとても飛び切ることは出来ません。遠いので海をとびこえるまでに翼を擦り減らしてしまいます”と答えたという歌。外国へ行ってしまった人や他国に死者の望郷の歌で普通男性が歌う。Протажные песни の代表的な歌で緩慢な1語1語を延ばして長く歌う歌唱形式が特徴である。

e チュマク (2曲 二見淑子 訳)

1 Гей, Та хто горя не знає (資料IV, No.1 参照)

おい、悲しみを知らない人 それは

- 1) おいおいおい！ 悲しみを知らない人 それは  
けれど悲しみを知らねば私に聞いて下さい
- 2) おいおいおい！ ああ作男として成長した  
むろん幸せな運命は全く知らないで 全く おい！
- 3) おいおいおい！ 色々な道を歩いたり  
そして他人の牛を追っていた。全く おい！

人生悪いことのない人はいない。何時でも悲しみがついて回るのだという悲哀に満ちた歌。

チュマク чумак (чумацький… ウクライナ語) とは往年のウクライナにおける牛車の馱者の通称で彼等はクリミヤ・ドン地方へ穀物を運び、魚や塩と交換した。ウクライナにない塩と魚を得るため、南方の黒海に面したクリミヤ半島まで牛車に毛皮や蜂蜜と共に穀物を積んではるばる旅したがクリミヤまでの道距は遠く且つ極めて危険であった。草原に屯する多数のタタール人に殺害されたり、途中病のため斃れた者は数知れずあった。それ故 Чумак の歌の内容は故郷から離れ遠い他国に死ぬ内容となり、普通男性が歌う歌謡が多い。

2 Що в Києві на Риночку (No.2 参照)

キエフの市場で

- 1) キエフの市場で  
そこにはチュマクがウォッカを飲んでいた

飲み放題，飲んで荷車を  
飲んで くびきを，その上鞭を  
自分のすべての財産を

2) チュマクは朝早く目覚める。

そして財布を探ってみる  
すべてのポケットをひっくり返す  
そこにさえ お金が もう何もない  
畜生（鬼が奪った）迎え酒を飲んでいる

この歌は1の歌とは全く趣を異にして陽気でコミカルな体裁を装ってはいるが，その裏に真暗な深淵が口を開き，言い知れぬ不安とベーススが漂っている。優しく歌う歌である。

以上 a～e までの歌謡の資料は総て1890年にキエフ市で出版された  
Mikora Lisenko<sup>†33</sup>  
Микола Лисенко の《ウクライナ歌曲集》第1 出版の中に存在する。

f コサック (Казак 2 曲 二見淑子 訳)

コサックとは15世紀→17世紀に苛斂誅求を避けてドン，ヤイク，ザポロージェ，シベリヤなど辺境に逃亡した農奴及びその子孫を無法者乃至冒険者を意味するチュルク語カザーフ Kazakh のなまりでコサック Kozak (Казак) と呼ばれた。ドン川の畔のコサックはドン・コサック，ヤイク川（今のウラル川）の畔はヤイク・コサックと称せられた。ウクライナは1386年ポーランドとリトアニア両王朝合体後ポーランド人進出の舞台となり，農民は領主に隷属して賦役させられたが東南方へ逃亡する者も多くその脱出地はドニエブル下流の“早瀬の向う側”<sup>Zaporozh'e</sup> Запорожье の広大な無人の原野であり，彼等はザポロージェ・コサックと呼ばれた。16世紀初頭ポーランド諸王もモスクワ大公達もタター人の侵入を防ぐためにコサックを屯田兵化し始め，世紀末にはドニエブル・コサックもドン・コサックも土地を所有し定住生活に入った。1569年ポーランドとリトアニア両国の合同以後ウクライナはポーランド領となり戦士としてのコサックも農奴待遇を受け，領主，代官，地方長官総てローマ・カトリック教徒であるという宗教的敵意も加って徐々に民族分離運動が醸成された。この傾向は1595年6月と1596年10月のブルゼスク宗教会議に

よるカトリック教会と正教会の合同後も変わらず正教主教10名の中教会の問題でローマ教皇庁の完全な優位を承認した9名も東方古来の儀式を堅持した。1596年の教会合同の結果ウクライナの住民は3つの宗教集団に分属することとなった。即ちポーランド人のローマ・カトリック教徒と今日、東方カトリック教徒と称されている合同派カトリック教徒、及び正教徒のコサックである。

1578年からポーランド軍に服役する<登録>コサックの小常備軍が設けられ、それ以外の者は封建的農民に数えられる、所謂ザポロージェ自治コサックを形成した。1630年、登録コサックは8000人に増加され、正教徒側の要求も教会の高職を合同派と分ち合うことで一部満された。然しコサックの本営を従属させておくため、ポーランドが早瀬地帯にクダーク要塞を構築したため1635年～38年に叛乱が続発したが総て鎮圧された。ポーランド議会は1638年に登録コサックを6000人に減員し、自治コサックの抑圧を意図する法令を通過させた。登録コサックの士官 <sup>Bogdan Khmel'nitskii</sup> Богдан Хмельницький は1647年地下にもぐって活動し、1648年にザポロージェ・コサックのゲトマン（首領）に選出されるや、数千人を率いて奇襲によりクダーク要塞を攻略、破壊し、タタル人の援助を得て1648年5月ポーランド軍を撃破し、ポーランドに兵を進め <sup>Khmel'nitskii</sup> 9月勝利を得た。1649年3月 Хмельницький は行動を再開、ポーランド軍は再び敗北を喫し、8月登録コサックを4万に増員し、キエフ、チェルニゴフ及びブラツラフ地方の王側役人をすべて正教徒にするという協定を結んだ。かくしてコサックはその自治権をめぐる民族解放の悲願の下に、歴史上数々の闘争を展開したのである。

#### 1. Ой на горі та й женці жнуть (資料V, No.1 参照)

ああ丘の上で刈入れ人は収穫している

ああ丘の上で刈入れ人は収穫している

ああ丘の上で刈入れ人は収穫している

一方 丘の麓に、大峡谷と盆地を

コサック達が歩いて行く

おい、広大な盆地をコサック達が歩いて行く



コサックの部隊が大きな峡谷や広い盆地を出たり入ったりして行進して行く情景を描いているが、17世紀の実在の人物、コサックの將軍 <sup>Sagaidainyi</sup> Сагайдаинный が自己の妻をコサックのシンボル、煙草とパイプに交換したという民話に基づいた歌の序に当る。歴史的情報に覆われているため17世紀の代表的歴史歌謡として、1982年10月音楽学会第33回全国大会において発表したものであるが、歌唱法式としては＜抒情歌＞のカテゴリーに入っている。

1648年ウクライナに初めて軍隊が生まれ戦闘が行われた結果＜行進曲＞の誕生を見た。

この歌は Solo で歌われるだけでなく Chorus として合唱団でよく歌われる＜コサックの栄光＞についての歌謡、現在でもウクライナで盛んに愛唱され、民衆に最も愛好されている行進曲風の歌である。

資料は1963年キエフ国立出版所＜芸術＞より出版された＜ウクライナ歌曲集＞である。

## 2 А ще сонце не заходило. (No. 2 参照)

まだ 太陽は沈まなかった

1) まだ 太陽は沈まなかった

だが 暗闇になった

2) だが 暗闇になった

不幸な人は

コサック兵を愛する乙女

3) コサック兵を愛する

コサック兵は聖なる原へ行く

私は1人残っている

4) 私は1人残っている

私は1人残っている

乙女でもなく、未亡人でもない

5) 乙女でもなく、未亡人でもない

乙女でもなく、未亡人でもない

若い新募兵のよう

この歌は俄に出動命令の下ったコサック兵を愛する乙女の絶望的な苦悩を描いている。歌詞の3番にある<聖なる原へ行く>とは戦うため戦場に赴くことであり、最後の歌詞<若い新兵のよう>とは新兵のように苦しい生活が待っているという意味。愛するコサック兵を戦場に送った別離の孤独と哀愁が鮮明に浮彫にされている。

資料は1954年キエフの国立出版所<<芸術>>より出版された<<ウクライナ民謡>>第1巻である。

以上コサックの歌2曲は相互に表裏一体を成している。即ち前者はコサックの栄光であり、後者はその蔭に泣く女性の涙である。此の世に戦いのある限りその犠牲となり涙する女性の哀愁が直接（後者）乃至間接（前者）に切々と伝って来る。

#### 8 新募兵（2曲 二見淑子 訳）

徴兵ではなく傭兵で毎年新兵を募集したがその募兵方法は必要人数を全ロシア各州に分け、更に地区に、最後に村に募兵数を割り当て新兵を募る。各村では若者のいる家から割り当て人数に応じて新兵を集めたのであるが、金持は金を支払って兵役を逃れた。従って多額を支払えぬ貧民は新兵に応募せざるを得なかった。新兵の辛苦は何れの国、何れの世にも格別であるが、その家族の苦悩も看過出来ぬものがあつた。特に17世紀末即位したピョートル<sup>注39</sup>1世（Пётр I … Великий 大帝）の治世には度々戦争が行われたため夥しい兵士が必要となり、多数の新兵募集が行われたのである。

#### 1. Зажурилася вдова. (資料VI参照)

未亡人は嘆いた

##### 1) 未亡人は 嘆いた

何故 草が生えなかったか

おいおい、何故 草が生えなかったか

##### 2) ただ 緑色の庭（果樹園）だけが突った

庭のそばのおどろ園に

おいおい、庭のそばのおどろ園に

##### 3) そこに奥方が行ったり来たりしておられた

奥方を案内した

おいおい、奥方を案内した

- 4) あなた、貴族夫人—奥様方よ

お庭を少し散歩することをお許し下さい

おいおい、お庭を少し散歩することをお許し下さい

- 5) お庭を散歩することをお許し下さい

手紙を書くことをお許し下さい

おいおい、手紙を書くことをお許し下さい

- 6) 手紙を書くことをお許し下さい

町中にあちこち送ることをお許し下さい

おいおい、町中にあちこち送ることをお許し下さい

- 7) 町中にあちこち送ることをお許し下さい

新募兵に誰を連れて行くかをお許し下さい

おいおい、新募兵に誰を連れて行くかをお許し下さい

- 8) 私達は金持を新兵にしたい

金持はお金を払って新兵にはならない

おいおい、金持はお金を払って新兵にはならない

- 9) 私達は孤児を新募兵にしたい

そして心配を追払う

おいおい、心配を追払う

尻取り歌形式のこの歌は夫を戦争で失った未亡人の悲嘆を描き、金力で兵役を逃れるのが常である金持と家族の嘆きを見ずに済む孤児を新兵にしたいという民衆の強い願望の蔭に潜む民衆の涙と苦衷が滲み出ている。

資料は1955年ウクライナ・ソビエト社会主義共和国科学アカデミー学術探  
険隊が<sup>Черкаської<sup>註40</sup></sup>チェルカッシコーエ州、<sup>Жашківського</sup>ジャシキフシコーヴァ地区、<sup>Охматів</sup>オフマチフ村の  
L. Yashenko  
若者グループから Л. Яшенко の解説により記録したものである。

- 2) Туман яром, туман яром (資料VII参照)

谷間には霧が、谷間には霧が

- 1) 谷間には霧が、谷間には霧が

盆地には寒気が  
新兵はめぐり会う  
若い娘と

- 2) <ああ、お早よう、眉の黒い  
ああ、お早よう、お早よう！  
私に話して下さい 眉の黒い  
この道は何処へ行きますか>
- 3) <道、道  
きれいな野原へ  
きれいな野原へ、広々とした場所へ  
すいかづらの茂みに 花が咲く
- 4) きれいな野原へ、広々とした場所へ  
すいかづらの茂みに 花が咲く  
ああ、そこに母親が 自分の息子を  
新兵として着飾らせる>
- 5) <出てお行き、さあ、出てお行き、  
私の息子 兄の代りに  
あそこで お前のために  
お国が 軍服を作っている>
- 6) <私にとっては、お母さん、より容易いこと  
けわしい山を切り崩すことが  
私にとっては、お母さん  
国王の軍服を身につけるよりも
- 7) けわしい山を切り崩すと  
坐って休憩する  
何と国王の軍服を身に<sup>2</sup>着けると  
死ぬまで もう脱げない>

この歌の2番の歌詞の<眉の黒い>というのは若者のことであり、2人兄弟の中、一家の大黒柱である兄の代りに新兵に応募する弟を母親は精一杯着飾

らせながら交わす問答形式の歌。息子は国家が軍服を作ってくれているという母親に国王の軍服を着るよりも大きな険しい山を切り崩すことの方が容易いと答え、その理由として「険しい山を切り崩した後は坐って休憩が出来る。然し一旦国王の軍服を着用すると、もう一生涯脱ぐことは出来ない」と生命の危険を訴え、戦争の直接の被害者の断腸の決別情景が克明に描かれている。

資料は1954年キエフの《芸術》出版所から出版された <sup>P.ゼムツィキー</sup> П. Демуцький の《ウクライナ民謡》の中に存在する。

## 第V章：ウクライナ抒情歌の科学的分析

今世紀初頭、ハンガリーの精神生活に訪れた輝かしい瞬間にマジャール民族の民族音楽研究を通し、ハンガリー民族音楽を確立した著名な作曲家の Bartók Béla 及び音楽教育家でもあった Kodály Zoltán の民謡分析7項目に、独自の分析5項目を加味した科学的分析方法を用いて、抒情歌11曲の分析を試みた。

### A 分析項目の紹介

- 1 歌謡内容
- 2 Cadence
- 3 終止音
- 4 Range
- 5 <sup>注41</sup> 最大跳躍度数
- 6 Scale, Mode
- 7 音列の性格
- 8 速度標語
- 9 Metric
- 10 Rhythmic
- 11 Syllabic
- 12 Podic (小節数)

以上2, 4, 6, 9, 10, 11, 12の英語7項目は Kodály と Bartók の民謡分析方法であり, 1, 3, 5, 7, 8は独自の分析方法である。

B 内容別分析調査(資料XII参照)

1983年11月分析調査の結果, 以下(資料XII 及び資料VIII~XIの該当No.を参照)の成果を得た。

a 1 女性の運命(第IV章B項a) No.1 ; No.2

2 Cadence …… 2 V 2 ; VI VI VI

3 Tonic (主音) ; Tonic (主音)

4 V→7 (10度) ; V→6 (9度)

5 7度 ; 5度

6 a minor (Scale) ; E Aeolia (Mode)

7 Minor 的 ; Minor 的

8 極めて荘重に ; 広々と

9 Iso ( $\frac{4}{4}$ 拍子) ; Iso ( $\frac{4}{4}$ 拍子)

10 Hetero ; Hetero

11 Hetero(8 6 6 6) ; Hetero (10 10 8 8 6 6)

12 Hetero (tetra, tri) ; Hetero (tri,bi)

b 1 愛について(第IV章B項b)

2 Cadence…… 3 VI VI

3 Tonic

4 VI→6度(8度)

5 4度

6 Hexa chord (Scale)

7 Major 的

8 陽気に楽しく

9 Hetero ( $\frac{6}{4}$ 拍子と $\frac{4}{4}$ 拍子の混成拍子)

10 Hetero

11 Hetero (11 11 7)

12 Iso (bi)

- c 1 船曳人夫 (日雇農夫) (第IV章B項c)
- 2 Cadence……1 8 1
- 3 Tonic (主音)
- 4 1→8 (8度)
- 5 5度
- 6 G Aeolia (Mode)
- 7 Minor 的
- 8 悲哀にみちて
- 9 Iso ( $\frac{4}{4}$ 拍子)
- 10 Hetero
- 11 Hetero (7 6 5 5 7 6 5)
- 12 Hetero(tri, tetra, penta)
- d 1 望郷 (異郷での死) (第IV章B項d)
- 2 Cadence…3 VI 3 VI
- 3 Tonic
- 4 VI→6 (8度)
- 5 5度
- 6 Hexa chord (Scale)
- 7 Minor 的
- 8 ゆるやかに
- 9 Iso ( $\frac{3}{4}$ 拍子)
- 10 Hetero
- 11 Hetero (5 5 6 7 5 5 8 5 5)
- 12 Hetero (tetra, hexa)
- e 1 チュマク (第IV章B項e) No. 1, No. 2
- 2 Cadence…VI VI VI ; I I V
- 3 Tonic; ; Tonic
- 4 IV→7 (11度) ; V→8 (11度)
- 5 8度 ; 8度

- 6 F Aeolia(Mode) ; D Mixolidia(Mode)  
 7 Minor 的 ; Major 的  
 8 ゆっくりと ; 余り速くなく  
 9 Iso ( $\frac{2}{4}$  拍子) ; Hetero ( $\frac{3}{4}$  拍子,  $\frac{4}{4}$  拍子)  
 10 Hetero ; Hetro  
 11 Hetero(10 10 12 10 11 11) ; Hetero(8 8 8 8 5)  
 12 Hetero(penta, hexa) ; Hetero(tetra, bi)
- f 1 コサック (第IV章B項 f) No.1 ; No.2  
 2 Cadence…VI VI VI ; 2 3 2  
 3 Tonic ; Tonic  
 4 VI→8 (10度) ; II→3 (9度)  
 5 8度 ; 8度  
 6 E Phrygia(Mode) ; A Mixolidia(Mode)  
 7 Minor 的 ; Major 的  
 8 中庸に ; 広々と  
 9 Iso ( $\frac{4}{4}$  拍子) ; Iso ( $\frac{3}{4}$  拍子)  
 10 Hetero ; Hetero  
 11 Hetero(8 8 6 6 8 8 8) ; Hetero(9 7 7 9 7)  
 12 Hetero(tetra, tri) ; Hetero(tetra, tri)
- g 1 新募兵 (第IV章B項 g) No.1 ; No.2  
 2 Cadence…IV 7 ; 1 8 5 8  
 3 Tonic ; Tonic  
 4 IV→7 (11度) ; VII → 8 (9度)  
 5 8度 ; 8度  
 6 F# Aeolia (Mode) ; G Phrygia (Mode)  
 7 Minor 的 ; Minor 的  
 8 ゆっくりと (静かに自由に) ; ゆっくりと  
 9 Iso ( $\frac{4}{4}$  拍子) ; Hetero ( $\frac{4}{4}$  拍子,  $\frac{6}{4}$  拍子)  
 10 Hetero ; Hetero



11 Hetero(7 7 10) ; Hetero(8 7 8 8)

12 Hetero(tetra, tri) ; Iso(bi)

## 第VI章：ウクライナ抒情歌の分析統計

第V章B項の分析調査の後、独自の統計方法により、1983年11月統計の結果、次の deta を得た。(資料 XIII 参照) 分析統計に当り、分析統計項目番号は第V章A、B項と同一となしたが、統計に不適当な項目番号2は省略した。

1.	a 女の運命	2 曲	18.18%
	b 愛について	1 曲	9.09%
	c 船曳人夫	1 曲	9.09%
	d 望郷	1 曲	9.09%
	e チュマク	2 曲	18.18%
	f コサク	2 曲	18.18%
	g 新募兵	2 曲	18.18%
3	終止音……Tonic	11	100%
4	8 度, 9 度, 11 度…各 3	各 3	各 27.27%
	10 度… 2		18.18%
5	4 度, 7 度…各 1		9.09%
	5 度… 3		27.27%
	8 度… 6		54.54%
6	minor… 1		9.09%
	Aeolia… 4		36.36%
	Phrygia… 2		18.18%
	Hexa chord… 2		18.18%
	Mixolidia… 2		18.18%
7	Minor 的… 8		72.72%
	Major 的… 3		27.27%
8	ゆっくり… 4		36.36%

広々と… 2	18.18%
悲哀・荘重… 2	18.18%
陽気に… 1	9.09%
余り速くなく… 1	9.09%
中庸に… 1	9.09%
9 Iso… 8 72.72%	$\left\{ \begin{array}{l} \frac{2}{4} \text{ 拍子} \cdots 1 \quad 9.09\% \\ \frac{3}{4} \text{ 拍子} \cdots 2 \quad 18.18\% \\ \frac{4}{4} \text{ 拍子} \cdots 5 \quad 45.45\% \end{array} \right.$
Hetero… 3	$\left\{ \begin{array}{l} \frac{3}{4}, \frac{4}{4} \text{ 拍子} \cdots 1 \quad 9.09\% \\ \frac{4}{4}, \frac{6}{4} \text{ 拍子} \cdots 2 \quad 18.18\% \end{array} \right.$
10 Iso… 0, Hetero… 11	100%
11 Iso… 0, Hetero… 11	100%
12 Iso… 2 18.18%, Hetero… 9 81.81%	
12' 小節数 2小節… 2	18.18%
2.3小節… 1	9.09%
2.4小節… 1	9.09%
3.4小節… 4	36.36%
4.6小節… 1	9.09%
5.6小節… 1	9.09%
3.4.5小節… 1	9.09%

以上の data を文章表現で端的に総括すると、終止音はすべて Tonic (主音)、音域は極めて広く 8 度～11 度、最大跳躍も同様に極めて広い (8 度が 54.54%)。音列は <sup>注46</sup> Aeolia 旋法が最も多く、<sup>注47</sup> Phrygia 旋法、<sup>注48</sup> Mixolydia 旋法、Hexa chord がこれに続き、Minor (短調) 的要素が支配的である。速度標語はゆるやかな速度が最も多く、<広々と>、<悲哀> が次席となっている。Metric は殆どが Iso (同一拍子) で  $\frac{4}{4}$  拍子が約半数 (45.45%) を占めている。Rhythmic, Syllabic はすべて Hetero (異数) でシラブルが同一でない

ため、リズム形もまた同一でないことが証明されている。シラブルが同一でないことは Podic にも影響を及ぼし、その大部分 (81.81%) が Hetero (内訳は <tri> 3 小節と <tetra> 4 小節が首位) でその相互関係を如実にあらわしている。

## 第VII章：ウクライナ歴史歌謡との総合比較

### A 科学的分析統計の比較 (資料XIV参照)

同一の科学的分析方法に基づき分析調査したウクライナ歴史歌謡の分析統計 (大部分は1982年10月音楽学会第33回全国大会において発表, 一部は1983年11月分析調査した) とウクライナ抒情歌の分析統計を比較調査し, 次のデータを得た。(資料 XIV …1983年11月作成) 調査に当り, 第V章, 第VI章の分析12項目の中 1 内容は歴史歌謡の場合同一テーマであるため, 2 Cadence とともに比較不可能のため, 項目から除外した。さらに第V章, 第VI章の分析項目順序を尊重しつつ細目順序をイロハ順に改め, 比較を明快にするため抒情歌を A で, 歴史歌謡を B で記すこととする。

#### 1. 細目順序の紹介

- イ 音域
- ロ 最大跳躍
- ハ 終止音
- ニ 音列
- ホ 音列の性格
- へ 速度標語
- ト Metric
- チ 拍子
- リ Rhythmic
- ヌ Syllabic
- ル Podic
- ヲ 小節数

## 2. 抒情歌と歴史歌謡の1順序による比較

A, B各11曲のため、以下実数であらわす。

イ A…8, 9, 11度は各3; 10度は2

B…9度が5; 10度が4; 8度, 5度が各1

共に広い音域であるが、A抒情歌の方がより広い音域(11度)が可成り存在する。

ロ A…8度が6; 5度が3; 4, 7度が各1

B…5, 6, 8度が3; 4, 7度が各1

イ同様共に大であるがAがより大(8度が6)であり極めて大きいと言い得る。

ハ A…すべてが Tonic (主音が11)

B…Tonic が10; Dominant (属音) が1

A, B共に殆ど主音, Aは属音が皆無

ニ A…Aeolia が4; Phrygia, Mixolydia, Hexa chord が各2; minor が1

B…Aeolia が6; <sup>注49</sup>Dolia が3; minor, <sup>注50</sup>Phrygia, Penta-chord, <sup>注51</sup>Mixolydia, Hypo-lonia が各1

共に Aeolia 旋法が最多, minor が1

ホ A…Minor 的が8, Major 的が3

B…Minor 的が12, Major 的が2

Bの Minor 的が12(11曲中)というのは1曲の中に2種の音列を有する曲が3曲あるためであるがA, B共に Minor 的性格が圧倒的に強い。Major 的性格は僅少。

ヘ A…<ゆっくりと>が4, <荘重・悲哀><広々と>が各2, <中庸に><陽気にくもらせずに><余り速くなく>が各1

B…<ゆっくりと>が4, <荘重・悲哀><ゆったりした歩調>が各2, <中庸に><陽気にくもらせずに><次第にゆっくりと>が各1

A, B共に<ゆっくりと>が4であり、次に<荘重・悲哀>が2で続き、<中庸に>が1となり、殆ど同傾向を示している。

ト A…lso が 8 ; Hetero は 3

B…lso が 9 ; Hetero は 2

A, Bほとんど変わらず lso が支配的

チ A… $\frac{4}{4}$ 拍子が 5 で最多 ; 次が  $\frac{3}{4}$ 拍子,  $\frac{4}{4} + \frac{6}{4}$ 拍子が各 2 ;  $\frac{2}{4}$ 拍子,  $\frac{3}{4}$   
+  $\frac{4}{4}$ 拍子が各 1 ; 自由リズムは 0

B… $\frac{2}{4}$ 拍子が 4 で最多 ; 次は  $\frac{3}{4}$ 拍子が 2 ;  $\frac{4}{4}$ 拍子,  $\frac{5}{4}$ 拍子,  $\frac{6}{4}$ 拍子,  
 $\frac{3}{4} + \frac{4}{4}$ 拍子 ; 自由リズムが各 1

A, Bは $\frac{4}{4}$ 拍子と $\frac{2}{4}$ 拍子の差異はあっても 2拍子系統が首位であり,  
次は 3拍子が続くところは類似傾向を有しているが Aには全く自由  
リズムがない。

リ A…lso が 0, Hetero が 11 (A11)

B…lso が 3 ; Hetero が 8

Aは総てのリズム形が Hetero で lso は存在しない。Bのリズム形も  
Hetero が支配的であるが同一リズム形も少数存在する。

ヌ A…lso が 0 ; Hetero が 11 (A11)

B…lso が 7, Hetero が 4

Aは総てのシラブルが Hetero で lsoは皆無。Bのシラブルは逆に同  
一シラブルが 63.63%を占め支配的であるが, Hetero も少数 36.36%  
存在している。

以上Aはり項との密接な相互関係を示しており, Bはり項と全く対照  
的 deta を示している。

ル A…lso が 2 ; Hetero が 9

B…lso が 8 ; Hetero が 3

Aは Hetero が大部分で lso が僅少, Bは数値は少しかわるが lso が  
支配的であり, Hetero は少数 (27.27%) を占め, AとBは全く対照  
的な deta を示し, ヌ項とは両者共或程度の相互関係が感知される。

ヲ A…ルの lso は 2小節が 2 ; Hetero の内訳は 3, 4小節が最多で 4,  
2.3小節, 2.4小節, 4.6小節, 5.6小節, 3.4.5小節が各 1

B…ルの Iso の中 4 小節が最多で 4, 2 小節が 3, 5 小節が 1 ; ルの Hetero は 2. 3 小節, 4. 5 小節, 5. 6 小節が各 1

A の小節数は僅少の Iso が総て 2 小節で Hetero は 3. 4 小節が 36.36 % で他は様々な混成小節が各 1 存在するのに対し,

B の小節数は支配的な Iso の内訳が 4 小節が首位で, 2 小節がそれに続いている。

少数の Hetero は 3 種の混成小節より成っている。

## B 文学的, 音楽的側面の比較

1. 創作年代は歴史歌謡, 発表抒情歌共に革命前である。
2. 歴史的の歌謡には明白なテーマが不可欠であるが, 抒情歌には一定のテーマを必要としない。
3. 歴史歌謡には詩の中に実在の人物, 地名が盛り込まれており, 歴史的な情報に覆われているが, 抒情詩には個有名詞, 歴史的な情報は織り込まれていない。
4. 歴史歌謡は歴史的な事件を目撃した当時の民衆によって歌われたが, 抒情歌は特定の出来事を歌うのではなく, 日常社会的な普遍の内容を有している。
5. 詩の字数が歴史歌は 14, 12, 10 と大体定まっているが, 抒情詩は全く自由である。
6. 詩の内容は歴史歌謡は概して単一であるが, 抒情歌は極めて多様である。
7. 歴史歌は大体 <sup>注52</sup>Syllabic でありながら, 装飾音も多いが, 抒情歌には装飾音が極めて豊富である。
8. 音列は歴史歌謡には <sup>注53</sup>Дума(Duma) の音列に依っているメロディもあるが, 抒情歌には Дума の影響は認められない。
9. 抒情歌は特に Протяжные песни と称され, 1 語 1 語長く延ばして歌う歌が支配的である。
10. 歴史, 抒情歌共に当時は無伴奏で歌われた。

## C 総合

## a 共通点及びやや類似点

### イ 共通点

- 1 創作年代は発表した歌謡が両者とも革命前に限定されている。
- 2 創作当時、演奏は楽器を伴わず、無伴奏で歌われた。
- 3 演奏に当っては〈ゆるやかな〉作品が多く、曲想は〈悲哀〉が最も多い。

### ロ やや類似点

- 1 両者とも広い歌調であるが、抒情歌の方がより広く（11度も可成り存在する）極めて広い歌調（音域）と言い得る。
- 2 音程面も最大跳躍が共に大であるが抒情歌の方がより大であり（8度が54.54%）1同様抒情歌は極めて広いこととなる。
- 3 抒情歌は総て主音で終るが歴史歌の終止は大部分が主音であり、稀に属音で終ることもあり得る。
- 4 調性は共に短調的性格が圧倒的に強いが、歴史歌謡においてはより大なる Weight を占めている。
- 5 Melody は共に装飾音で装飾されたものが多いが、抒情歌の方がより多く装飾されている（歴史歌はシラビックな曲も多い）
- 6 リズム形は抒情歌は完全に多様であり、歴史歌は大部分が多様であるが、少数（27.27%）の同一リズム形も存在している。

### ハ 決定的相違点

- 1 歴史歌には明白なテーマを必要とするが、抒情歌には一定のテーマの必要がない。
- 2 歴史歌には詩の中に実在の人物名、地名が存在し、歴史的情報に覆われているが、抒情歌には個有名詞乃至歴史的情報は存在しない。
- 3 歴史歌謡は特定の事件を取り扱っているが、抒情歌には特定な出来事ではなく、日常社会的普遍的内容を有している。
- 4 詩のシラブルが歴史歌はほぼ一定であるが、抒情歌は全く自由である。
- 5 音列面では歴史歌謡の中に Duma Дума の影響も可成り見受けられる（特

に16世紀)が、抒情歌には全く見受けられない。

6 小節数は歴史歌は同一小節数が支配的であるが(少数の Hetero も存在する)、抒情歌は All Hetero で同一小節数は存在しない。

7 Rhythmic と Syllabic が抒情歌の場合は同一 deta を示し、極めて密接な相互関係が窺えるが、歴史歌謡では逆に Rhythmic と Syllabic が完全に正反対の deta を示している。

## 第VIII章：ウクライナ抒情歌の性格

前章の歴史歌謡との比較に基づき、<ウクライナにおける抒情歌の性格>を次の如く規定することが出来る。

- 1 社会、日常生活的な事柄について歌われ、明白なテーマを有していない。
- 2 内容種別が極めて豊富であり、それに伴って、様式もまた極めて多様である。
- 3 詩のシラブルが全く自由であり、詩の節の多様な作品ということが出来る。
- 4 最高に広い歌調(音域が最も広い)を有し、Melody は極めて大なる跳躍をなしており、(最大跳躍度数が最高)歴史歌謡と同様に、所謂<躍動しているメロディ>と称することが出来る。
- 5 Melody の音列は概して Mode (旋法)から構成され、Minor (短調)的性格が支配的である。
- 6 <ゆるやかな>速度が大部分を占め、曲想としては<広々と>、<悲哀>が最も多い。
- 7 Melody には装飾された抒情的歌調が多い。
- 8 シラブルの多様に伴い、リズム形もまた多様を極め、両者の密接な相互関係が感知される。
- 9 シラブルと小節数も可成り密接な関係を示し、Hetero (異数)の小節数が圧倒的に多い。
- 10 歌唱法式としては Протяжные песни (1語1語長く延ばして歌う歌)が大部分を占め、農奴の苦悩を中心に歌い上げた農村に伝承の歌謡である。



以上がウクライナ抒情歌の性格であり、特色としては内容種別の〈チュマク〉をウクライナ独自のものとして挙げる事が出来る。

### む す び

歴史歌謡に見られる躍動する歴史的事件の記録とは異なり、歴史と共に歩み、その蔭に花咲く民族の情感を力強く歌い上げ、特として歴史の底に深く沈潜する痛ましい傷跡を、烈しい痛恨と慟哭を、見事に蘇生させ、時代を超越し、民族を超越して、吾人の胸底に深く迫り、魂を強くゆさぶるものとして、また人類の悲願を今に伝えるものとして、〈民族久遠の記念碑〉の1たるのみならず、廣大無辺の普遍性と輝ける永遠の光彩と灯火を意味するものと確信する次第である。

将来の研究展望としては、世界唯一無二を誇る Дума (Duma) の研究に着手し、Дума、歴史歌謡、抒情歌を通しての〈ウクライナ民謡の本質〉に approach せんとするものである。

### 註

1. ポドゾル土壌…Podsol (Podzol). 土壌型の1種。湿潤寒冷な地方に主要なもので、一般に一端は泥炭土に、他端は褐色森林土または灰色森林土に接して現われる。主な植生型はヒース、針葉樹林であるが、落葉樹林や湿草地にも発達することがある。日本においては北海道北部に存在し、内地でも高冷な山岳地には可成り広く分布している。サハリン、シベリア、北ヨーロッパ、カナダなどに広大な分布がある。
2. 秋蒔小麦…春蒔よりも収穫率が高く、秋蒔小麦はウクライナ地域の主要農産物で共和国の作付面積の40%を占めている。
3. ウクライナにおける原始共産制の構成…紀元前8世紀までの時期に構成された。
4. 初期旧石器時代…旧石器時代の最も長い期間で多くの学者は100万年前頃～25万年前まで続いたと説いている。人々の多くは川岸の段丘や湖畔などに野営し、洞穴に住むことは余りなく裸身であったと推測される(概して温暖であったため)
5. 中期旧石器時代…約紀元前10万年～35000年までの時代でヨーロッパや西アジアの洞窟に居住する風習が一般的であった。
6. 後期旧石器時代…紀元前35,000年～1万年の時期で現代人と同種のホモ・サピエンスに属する所謂〈新人〉がネアンデルタール人などの旧人とは比較にならぬ高度の知能と豊富な内容の文化をもって広く登場した。
7. 旧石器時代…中石器時代、新石器時代に先行する最古の石器時代をいう。人類が

現在既に絶滅したか、若しくは生息地を変えた洪積世のほ乳動物と共生した時代の石器時代。(紀元前百万年～1万年)

8. 銅石併用時代…(銅石器時代)銅(青銅または鉄)の冶金術は知られていても利器の多くはまだ石で造られていた過渡的な時代を指す概念。新石器時代末期、或は銅器(青銅器乃至鉄器)時代初期の文化
9. 青銅時代…(紀元前3000年～2000年まで)金石併用時代を青銅時代を含め、その初期を<銅石併用>期と大体理解される。
10. 鉄器時代…石器時代、青銅時代に続く時代(紀元前3000年以前)利器の材料に精練された鉄材を利用するようになった時代
11. スキタイ人…紀元前7世紀～紀元後3世紀に黒海北岸に栄えたイラン語民族
12. Пантiкапей…Panchikapei 古代ギリシアの植民地で農業、漁業、手工業、商業の大中心地であった5大都市の1
13. Сармат…Sarmat (サルマト人)紀元前6世紀～2世紀に今日のロシア・ポーランドにいたイラン民族
14. Черняхов 文化…Chernyakhov キエフ西隣の Житомер 州の Черняхов 市 (Житомер 北方24km)で発掘の古代遺物により命名された文化と思われる。
15. Провинция…Provintsiya ドナウ河沿岸の古代ローマの領土・太守管区
16. Гот…Got ゴート民族
17. Гунн…Gunn フン族(匈奴)4世紀～5世紀にヨーロッパを侵した遊牧民
18. Авар…Avar (アヴァール人)コーカサス民族の1
19. Ант…Ant 東スラヴ族の中、ドナウ南岸に入ったもの。
20. Русь…Rus' ロシアの古名
21. Подсечное 農業…森林を開いて耕地とし、地味痩せれば再び森林とする農法
22. Киев…Kiev, 中世初期全ロシアの首都、現在ウクライナ社会主義共和国の首都
23. Чернигов…Chernigov 人口10万～20万、ウクライナ共和国の最北部(資料1参照)
24. Смерд…Smerd 封建的隷属農民
25. Закуп…Zakup 古代ロシアの作男
26. Холоп…Khorop 古代ロシアの奴僕、農奴
27. Князь…Княз' 古代ロシアの公侯、公爵
28. Боярин…Boyarin 古代ロシア、モスクワ帝国時代の大貴族
29. Дниепл…Днепр…ドニエプル川沿岸の草原地帯。資料1及び註29と共に第Ⅳ章B項f参照
30. Запорожье…Козацьк…ドニエプル下流の<早瀬の向う側>の広大な無人の原野にはコサックのセーチ(本営)がある。
31. Богдан Хмельницкий…Bogdan Khmel'nitskii (16世紀末～1657年)登録コサックの士官であり、ウクライナ民族解放の英雄
32. Екатерина 2世…ロシア帝国女帝(1729年～1796年)ドイツ生まれ。<大帝>

- と称せられる。在位1762年～1796年。自ら〈啓蒙専制君主〉と称した。
33. オルパチア山脈…ウクライナの西部に森林に覆われて聳えている山脈で、中部はソ連邦に属するが、山脈の北端は遠くポーランドに、南端はルーマニアに延びている。
  34. クヴァス…Квас キビ、アワなど種々の穀物から作る甘酸っぱい飲料
  35. ウラジーミル…Владимир Святой (賢公) ウラジーミル 1世(凡そ955年～1015年)キエフ・ロシアの大公。大公スヴァトスラフ 1世の末子として生れ父の死(972年)後976年後をつぎ、ノヴゴロド大公となり、980年キエフ・ルーシを統治した。
  36. Казак…Kazak コサック (第IV章B項f 参照)
  37. 歴史歌謡…歴史上の出来事を特定の職業的専門家が歌うのではなく、事件を目撃した当時の民衆によって生々と歌い上げた歌
  38. Микола Лисенко…Mikola Lisenko; Микола はロシア語の Николай のことでロシア語では Лысенко Николай Витальевич (1842年～1912年) ウクライナの有名な作曲家、ピアニスト、指揮者である。
  39. ビョートル 1世…Пётр I, Великий 大帝 (1672年～1725年) ロシア皇帝。1682年即位後1696年までイワン 5世と共治であったが1725年の死まで在位し、ロシア帝国を大発展させたロシア史上偉大な皇帝
  40. Черкаської…Cherkasikoe 州。キエフ東南200kmの位置にある州
  41. 最大跳躍度数…旋律の音と音の間の最も大きい距離 (最大音程)
  42. minor…短音階
  43. Mode…旋法。
  44. Hexa chord…6音から成る音階。6音音階
  45. Major…長音階
  46. Aeolia 旋法…エオリア旋法
  47. Phrygia 旋法…フリギア旋法
  48. Mixolydia 旋法…ミクソリディア旋法
  49. Dolia…ドリア旋法
  50. Penta-chord…5音よりなる音列
  51. Hypo-Ionia…ヒュボ・イオニア旋法
  52. Syllabic…各音節を発音する (一字一音式)
  53. Дума… Duma…ウクライナ民謡。叙事詩の1種。主に кобзарь (コプザ奏者) が弾き語りする独特の音列を有している。

## 謝 辞

本研究に色々とお協力頂いた 在日ソ連邦総領事館、前副領事 (現在モスクワ市 御在住) の Саплин Василий Иванович氏 (Saplin Vasiliï Ivanovichi)及び現総領事館員 Шепеленко Александр Николаевич 氏 (Shepelenko Aleksandr Nikolaevichi), 両氏に心からの感謝を捧げます。

## 参 考 文 献

### 欧文献

1. М. Лисенко, Збірник Українських пісень перший випуск К. 1890, No 17
2. Українські народні пісні, К. «МИСТЕЦТВО» 1954, кн. 1
3. Українське народне багатоголосся, Збірник пісень державне видавництво „МИСТЕЦ“ Київ—1963
4. П. Демуцький, Українські народні пісні К. «МИСТЕЦТВО» 1954
5. Музыкальная Энциклопедия : издательство «Советская/Энциклопедия» Москва, 1976, кн.3  
Москва, 1981, кн.5
6. Большая Советская Энциклопедия 26 издательство «Советская Энциклопедия» Москва, 1979

### 和文献

1. <ソビエト連邦地理>自然, 住民, 経済: ウエ・ボクシシェフスキー (監修エス・カザンスキー), プログレス モスクワ出版所, 1973年
2. ロシア史新版: 岩間徹編, 山川出版社, 1979年
3. ユーラシア文化史世界選書 3 <ロシアとアジア草原> : 佐口徹, 吉川弘文館, 昭和41年
4. ライフ人間世界史第16巻<ロシア> : ロバート・ウォーレス, タイム ライフ インターナショナル, 昭和43年5月
5. ロシア・ソビエト ハンドブック: 東郷正延ほか編集, 三省堂, 昭和53年4月
6. 世界大百科事典: 平凡社, 1972年4月第2巻, 第3巻, 第21巻, 第28巻
7. ブリタニカ国際大百科事典 2 : ディビーエス・ブリタニカ, 1972年6月
8. 世界史大系 1 : 誠文堂新光社, 昭和34年
9. 世界考古学事典上巻, 下巻: 平凡社, 1979年
10. 世界歴史事典: 平凡社, 昭和43年第1巻, 第7巻

1984年2月1日記

資料 I A ウクライナ共和国地図

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

世界大百科辞典第2巻、平凡社 1972年

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

キエフ・ロシア地図

ライフ人間世界史第16巻(ロシア)

タイムライフインタナショナル  
昭和43年

最初のロシア国家は、スカンディナヴィア半島とコンスタンティノーブルを結ぶ主要交易ルートになっていた数本の大河を囲んでいる地域に誕生した。ドニエプル川経由ルートにあるキエフが、882年その首都となった。

資料 II

№1 Ой глибокий колодязю, золотіі ключі 二見淑子 訳

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1. Ой глибокий колодязю,<br>Золотіі ключі, (3)        | あゝ深い井戸よ<br>金色の泉よ(3)           |
| 2. А вже ж мені докучило,<br>В світі горюючи. (3)     | だかもうんざりした<br>世の中を嘆いた(3)       |
| 3. Ой глибокий колодязю,<br>Боюсь, щоб не впасти, (3) | あゝ深い井戸よ<br>落ち込まないように気遣う(3)    |
| 4. Полюбила пройдисвіта<br>Прийдеться пропасти! (3)   | さすらい人を愛した<br>あゝ永久に破滅になるだろう(3) |
| 5. Ой глибокий колодязю,<br>Боюсь, щоб не впала, (3)  | あゝ深い井戸よ<br>落ちてしまわぬよう気遣う(3)    |
| 6. Полюбила пройдисвіта——<br>Та й навіки пропала.     | さすらい人を愛した<br>そして永久に破滅してしまった   |

№2 Чи я в лузі не калина була 二見淑子 訳

- |  |   |
|--|---|
| 1. Чи я в лузі не калина була,<br>чи я в лузі не червона була.<br>Взяли мене поламали<br>і в пучечки пов'язали.<br>Така доля моя,<br>гірка доля моя.   | (或いは) 私は牧草地の灌木ではなかったでしょうか?<br>牧草地の中の真紅の実ではなかったでしょうか?<br>私(枝)を折って束を作った<br>私の運命はこのようです<br>私の運命はいたましい      |
| 2. Чи я в батька не дитина була,<br>чи я в батька не кохана була.<br>Взяли мені повінчали<br>і світ мені зав'язали.<br>Така доля моя<br>гірка доля моя | 私は両親の中では赤ン坊ではなかった<br>私は両親の間では愛されなかった<br>私を片付け、結婚させた<br>世の中は私にとってどうにもならなかった<br>私の運命はこのようです<br>私の運命はいたましい |

### 資料 III

#### №1 Ой гай, мати, гай 二見淑子 訳

Ой гай, мати, гай,	おゝ お母さん
а мене заміж дай.	私を嫁がせて下さい
Та не дай мене аби за якого,	けれど誰にでも良いというのではなくて
бо моєї вроди жаль.	そうならば私の美は可哀想です

#### №2 Та забіліли сніги (Бурлацька) 二見淑子 訳

Та забіліли сніги,	そら白く白く見え始めた雪
забіліли білі	もっと白く見え始めた
Щей дубровонька.	樫の森 (樫の森も白く見え始めた)
Щей дубровонька.	樫の森
Та заболіло тіло бурлацькеє	船曳人夫の身体は疲れて痛くなった
біле щей головонька.	そして頭も白くなった

#### №3 Чуєш, брате мій 二見淑子 訳

Чуєш, брате мій,	私の兄弟
Товаришу мій,	私の友達 聴き給え
Відлітають сірим	鶴は灰色の細い
Шнуром журавлі в вирій.	縄のようになって暖かい国へ飛んで行く
Кличуть кру, кру, кру,	クル クル クルと悲しい鳴声で鳴きながら
В чужині умру.	他郷で死ぬ
Доки море перелечу,	海をとび越えるまで
Крилонька зітру,	翼を擦り減らして
Крилонька зітру.	翼を擦り減らして

資料 IV

№1 Гей, та хто горя не знає 二見淑子 訳

1. Гей, гей гей/ та хто горя не знає,  
Та нехай мене спитає, та гей!  
おいおいおい！ 悲しみを知らない人それは  
けれど悲しみを知らねば私に聞いて下さい
2. Гей, гей гей/ та виріс я в наймах, в неволі,  
Та не знав шастя ні долі, та гей!  
おいおいおい！ あゝ作男として成長した  
むろん幸せな運命は全く知らないで 全く お  
い！
3. Гей, гей, гей/ та по дорогах ходячи,  
Та чужії воли пасучи, та гей!  
おい おい おい！ 色々な道を歩いたり  
そして他人の牛を追っていた 全く おい！

№2 що в киеві на риночку 二見淑子 訳

1. що в киеві на риночку,  
Там пив чумақ горілочку ;  
Пропив воли, пропив вози,  
Пропив ярма ще й занози—  
Все свое добро!  
キエフの市場で  
そこにはチュマクがウォッカを飲んでいて  
飲み放題。飲んで荷車を  
飲んで くびきを その上鞭を  
自分のすべての財産を
2. Прокинувся чумақ вранці,  
Та й полапав у гаманці,  
Всі кишені вивертає,  
Аж там грошей вже чортмає.—  
Нічим похмелитися!  
チュマクは朝早く目覚める  
そして財布を探して見る  
すべてのポケットをひっくり返す  
そこにさえお金がもう何もない  
畜生（鬼がうばった）迎え酒を飲んでいる



資料 V

№1 Ой, на горі та женці жнуть 二見淑子 訳

Ой, на горі та женці жнуть,	あゝ, 丘の上で刈り入れ人は収穫している
Ой, на горі та женці жнуть.	あゝ, 丘の上で刈り入れ人は収穫している
А по під горою,	一方 丘のふもとに大峽谷と盆地を
Яром долиною казаки йдуть,	コサック達が歩いて行く
Гей, долиною, гей,	おい, 広大な盆地を
Широко козаки йдуть.	コサック達が歩いて行く

№2 А ще сонце не заходило 二見淑子 訳

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. А ще сонце не заходило, | まだ, 太陽は沈まなかった   |
| А збилась темнота.         | だが暗闇になった        |
| 2. А збилась темнота...    | だが暗闇になった        |
| А нещаслива та дівчина.    | 不幸な人は           |
| Котра любить козака.       | コサック兵を愛する       |
| 3. Котра любить козака...  | コサック兵を愛する       |
| А козак іде в чисте поле,  | コサック兵は聖なる原へ行く   |
| Зостаюся я сама.           | 私は1人残っている       |
| 4. Зостаюся я сама...      | 私は1人残っている       |
| Та зостаюся я сама—        | 私は1人残っている       |
| Ні дівчина, ні вдова.      | 乙女でもなく, 未亡人でもない |
| 5. Ні дівчина, ні вдова... | 乙女でもなく, 未亡人でもない |
| Ні дівчина, ні вдова—      | 乙女でもなく, 未亡人でもない |
| Рекруточка модода.         | 若い新募兵のよう        |

資料 VI

Зажурилася вдова 二見淑子 訳

1. Зажурилася вдова, 未亡人は嘆く  
Що не вродила трава. 何故 草が生えなかったか  
Гей-ю-гей, що не вродила трава. おいおい, 何故草が生えなかったか
2. Тільки вродив зелен сад, ただ緑色の庭（果樹園）だけが実った  
Попід садом виноград. 庭のそばのぶどう園に  
Гей-ю-гей, попід садом виноград. おいおい, 何故草が生えなかったか
3. Там барина ходила, そこに奥方が行ったり来たりしておられた  
Судариню вдова. 奥方を案内した  
Гей-ю-гей, судариню вдова. おいおい, 奥方を案内した
4. Ти бариня-судариня, あなた 貴族夫人—奥方様よ  
Позволь в саду погулять. お庭を少し散歩することをお許し下さい  
Гей-ю-гей, позволь в саду погулять. おいおい, お庭を少し散歩することをお許し下さい
5. Позволь в саду погулять, お庭を散歩することをお許し下さい  
Дрібних листочків списать. 手紙を書くことをお許し下さい  
Гей-ю-гей, дрібних листочків списать. おいおい, 手紙を書くことをお許し下さい
6. Дрібних листочків списать, 手紙を書くことをお許し下さい  
По городу розіслать. 町中にあちこち送ることをお許し下さい  
Гей-ю-гей, по городу розіслать. おいおい, 町中にあちこち送ることをお許し下さい
7. По городу розіслать, 町中にあちこち送ることをお許し下さい  
Кого в рекрути забрать. 新募兵に誰を連れて行くかをお許し下さい  
Гей-ю-гей, кого в рекрути забрать. おいおい, 新募兵に誰を連れて行くかをお許し下さい
8. Оддамо ми багача, 私達は金持を新兵にしたい  
Багач викупиться. 金持はお金を払って新兵にはならない  
Гей-ю-гей, багач викупиться. おいおい, 金持はお金を払って新兵にはならない
9. Оддамо ми сироту, 私達は孤児を新兵にしたい  
Та й збудемось клопоту. そして心配を追払う  
Гей-ю-гей, та й збудемось клопоту. おいおい, そして心配を追払う

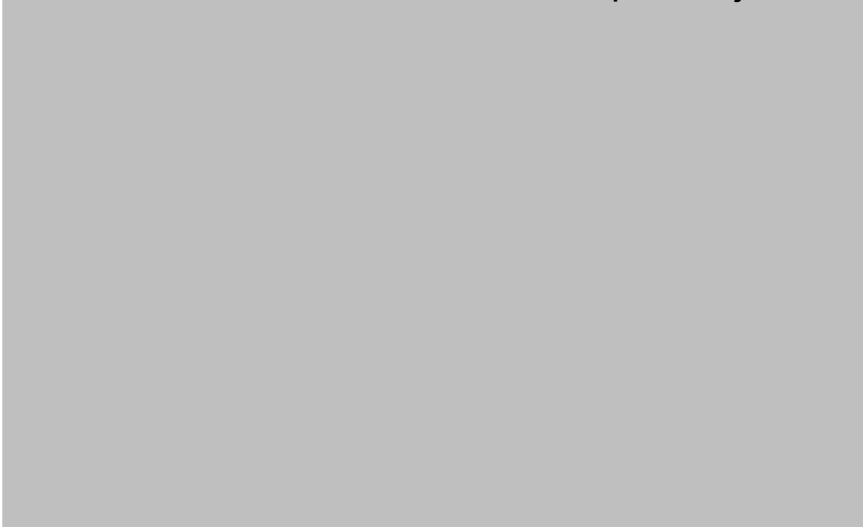
資料 VII

Туман яром, туман яром 二見淑子 訳


1. Туман яром, туман яром, 谷間には霧が谷間には霧が  
А мороз долиною, 盆地には寒気が  
Стрічається рекрутина 新兵はめぐり会う  
З молодою дівчиною. 若い娘と
2. «Ой здорова, черноброва, <あゝ, お早よう, 眉の黒い>  
Ой здорова, здорова: あゝ, お早よう, お早よう!  
Скажи мені, черноброва, 私に話して下さい 眉の黒い  
А куди цей шлях-дорога?» この道は何処へ行きますか>
3. «Шлях-дорога, шлях-дорога <道 道  
Аж в чистее поле… きれいな野原へ  
В чистім полі на роздолі きれいな野原へ, 広々とした場所へ  
Куш калини рзцвітає. すいかづらの茂みに 花が咲く
4. В чистім полі на роздоллі きれいな野原へ, 広々とした場所へ  
Куш калини розцвітає. すいかづらの茂みに 花が咲く  
Ой там мати свого сина あゝ, そこに母親が自分の息子を  
У рекрути виряджає». 新兵として着飾らせる>
5. Иди ж, іди, мій синочку, <出てお行き, さあ, 出てお行き  
Та за старшого брата, 私の息子 兄の代りに  
Там на тебе крають-шиють あそこで お前のために  
Государське плаття». お国が軍服を作っている>
6. «Легше мені, моя мати, <私にとっては, 私のお母さん, より容易いこと  
Круту гору розкопати, けわしい山を切り崩すことが  
Аніж мені, моя мати, 私にとっては お母さん  
Царське плаття надівати. 国王の軍服を身に着けるよりも
7. Розкопаю круту гору, けわしい山を切り崩すと  
Сяду та й спочину,一 坐って休憩する  
Як надіну царське плаття— 何と国王の軍服を身に着けると  
Та й довіку вже не скину». 死ぬまでもう脱げない>

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.




Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.



Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.



Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.



## 資料 XII

## ウクライナ抒情歌の分析表

1983.11 二見淑子分析調査

	内 容	Cadence	終止	Range	最大 跳躍	Scale, Mode	速度標語	
1	女性の運命 1	2 V 2	Tonic	V→7	10度	7度	a minor	極めて荘重に
2	// 2	VI VI VI	T.	V→6	9度	5度	E Aeolia	広々と
3	愛	3 VI VI	T.	VI→6	8度	4度	Hexa chord (Major 的)	陽気に楽しく
4	船 曳 人 夫	1 8 1	T.	I→8	8度	5度	G Aeolia	悲哀にみちて
5	他郷に死す <sup>望郷</sup>	3 VI 3 VI	T.	VI→6	8度	5度	Hexa chord (Minor 的)	ゆるやかに
6	チュマク 1	VI VI VI	T.	IV→7	11度	8度	F Aeolia	ゆっくりと
7	// 2	1 1 V	T.	V→8	11度	8度	D Mixolidia	余り速くない
8	コサック 1	VI VI VI	T.	VI→8	10度	8度	E Phrygia	中庸に
9	// 2	2 3 2	T.	II→3	9度	8度	A Mixolidia	広々と
10	新 募 兵 1	IV 7	T.	IV→7	11度	8度	F# Aeolia	静かに自由に ゆっくりと
11	// 2	1 8 5 8	T.	VII→8	9度	8度	G Phrygia	ゆっくりと
	内 容	Metric	Rhythmic	Syllabic		Podic		
1	女性の運命 1	$\frac{4}{4}$	Iso	Hetero	8 6 6 6	H.	H.	4, 3
2	// 2	$\frac{4}{4}$	Iso	Hetero	10 10 8 8 6 6	H.	H.	3, 2
3	愛	$\frac{6}{4} \frac{4}{4}$	Hetero	Hetero	11 11 7	H.	I.	2
4	船 曳 人 夫	$\frac{4}{4}$	Iso	Hetero	7 6 5 5 7 6 5	H.	H.	3, 4, 5
5	望 郷	$\frac{3}{4}$	Iso	Hetero	5 5 6 7 5 5 8 5 5	H.	H.	4, 6
6	チュマク 1	$\frac{2}{4}$	Iso	Hetero	10 10 12 10 11 11	H.	H.	5, 6
7	// 2	$\frac{3}{4} \frac{4}{4}$	Hetero	Hetero	8 8 8 8 5	H.	H.	4, 2
8	コサック 1	$\frac{4}{4}$	Iso	Hetero	8 8 6 6 8 8 8	H.	H.	4, 3
9	// 2	$\frac{3}{4}$	Iso	Hetero	9 7 7 9 7	H.	H.	4, 3
10	新 募 兵 1	$\frac{4}{4}$	Iso	Hetero	7 7 10	H.	H.	4, 3
11	// 2	$\frac{4}{4} \frac{6}{4}$	Hetero	Hetero	8 7 8 8	H.	I.	2



## 資料 XIII

## ウクライナ抒情歌の分析統計表

1983.11 二見淑子分析統計

1	内 容	女性の運命	愛	船曳人夫	望 郷	チュマク	コサック	新募兵
	11曲	2 18.18%	1 9.09%	1 9.09%	1 9.09%	2 18.18%	2 18.18%	2 18.18%
3	終 止 音	Tonic	Dominant	その他				
	11曲	11 100%	0	0				
4	音 域	5度	6度	7度	8度	9度	10度	11度
	11曲	0	0	0	3 27.27%	3	2 18.18%	3
5	最大跳躍	4度	5度	6度	7度	8度		
	11曲	1 9.09%	3 27.27%	0	1	6 54.54%		
6	音 列	minor	Aeolia	Phrygia	Hexa chord	Mixolydia		
	11曲	1 9.09%	4 36.36%	2 18.18%	2	2		
7	調 性	Minor的	Major的					
	11曲	8 72.72%	3 27.27%					
8	速度標語	ゆっく りと	広々と	中庸に	荘重・悲哀	余り速くな く	陽気に	
	11曲	4 36.36%	2 18.18%	1 9.09%	2	1	1	
9	Metric	Iso	Hetero					
	11曲	8 72.72%	3 27.27%					
9'	拍 子	$\frac{2}{4}$ 拍子	$\frac{3}{4}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{3}{4}, \frac{4}{4}$	$\frac{4}{4}, \frac{6}{4}$		
	11曲	1 9.09%	2 18.18%	5 45.45%	1	2		
10	Rhythmic	Iso	Hetero					
	11曲	0	11 100%					
11	Syllbic	Iso	Hetero					
	11曲	0	11 100%					
12	Podic	Iso	Hetero					
	11曲	2 18.18%	9 81.81%					
12'	小 節 数	2小節	2, 3小節	2, 4小節	3, 4小節	4, 6小節	5, 6小節	3, 4, 5 小節
	11曲	2 18.18%	1 9.09%	1	4 36.36%	1	1	1

資料 XIV

ウクライナ抒情歌と歴史歌謡の分析統計比較表

抒情歌をAで、歴史歌謡をBで示す

1983.11 二見淑子分析調査の上作成

イ	音域	5度	6度	7度	8度	9度	10度	11度				
	A 11曲	0	0	0	3 27.27%	3	2 18.18%	3				
ロ	B 11曲	1 9.09%	0	0	1	5 45.45%	4 36.36%	0				
	最大跳躍	4度	5度	6度	7度	8度	ハ	終止音	Tnic	Domi nant		
ニ	A 11曲	1 9.09%	3 27.27%	0	1	6 54.54%		A 11曲	11 100%	0		
	B 11曲	1	3	3	1	3		B 11曲	10 90.9%	1 9.09%		
ホ	音列	minor	Aeolia	Phrygia	Dolia	Penta- chord	Hexa- chord	Mixolydia	Hypo- lonia	Major		
	A 11曲	1 9.09%	4 36.36%	2 18.18%	0	0	2	2	0	0		
ヘ	B 11曲	1	6 54.54%	1	3 27.27%	1	0	1	1	0		
	音列性格	Minor的 < A... 8 (72.72%) B... 12 (109.08%)				Major的 < A... 3 (27.27%) B... 2 (18.18%)						
ト	速度標語	ゆっくり と	広々と	中庸に	荘重・ 悲寂	余り速く なく	ゆったりし た歩調	陽気にくも らせずに	次第にゆ っくりと			
	A 11曲	4 36.36%	2 18.18%	1 9.09%	2	1	0	1	0			
チ	B 11曲	4	0	1	2	0	2	1	1			
	Metric	Iso	Hetero					Rhythmic	Iso	Hetero		
リ	A 11曲	8 72.72%	3 27.27%					A 11曲	0	11 100%		
	B 11曲	9 81.81%	2 18.18%					B 11曲	3 27.27%	8 72.72%		
ヲ	拍子	2/4拍子	3/4	4/4	5/4	6/4	3+4/4	4+6/4	自由 リズム			
	A 11曲	1 9.09%	2 18.18%	5 45.45%	0	0	1	2	0			
ル	B 11曲	4 36.36%	2	1	1	1	1	0	1			
	Podic	Iso	Hetero					Syllabic	Iso	Hetero		
ヲ	A 11曲	2 18.18%	9 81.81%					A 11曲	0	11 100%		
	B 11曲	8 72.72%	3 27.27%					B 11曲	7 63.63%	4 36.36%		
ヲ	小節数	2小節	4	5	2,3	2,4	3,4	4,5	4,6	5,6	3,4,5	
	A 11曲	2 18.18%	0	0	1	1	4	0	1	1	1	
ヲ	B 11曲	3 27.27%	4 36.36%	1 9.09%	1	0	0	1	0	1	0	